

# 知夫里島学び舎構想

～ふるさと教育を中心に据えて～



令和3年7月

知夫村教育委員会

## 【目 次】

### 知夫里島学び舎構想イメージ図

#### 1 学び舎構想の趣旨

#### 2 学校教育について

- (1) 目指す子ども像
- (2) 小規模小中一貫校としての利点を生かした教育活動の推進
- (3) ふるさと教育の推進
- (4) 教育環境の整備

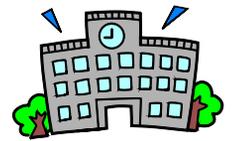
#### 3 島留学制度について

- (1) 島留学のねらい
- (2) 安定的な児童・生徒及びスタッフの確保体制の構築
- (3) 今後の展望

#### 4 社会教育について

- (1) 社会教育のねらい及び基本目標
- (2) 地域づくり・人づくりを推進するための重点施策
- (3) 地域住民の学び舎としての学校・教委・公民館一体型校舎の活用推進
- (4) 人材の発掘
- (5) 広報活動の充実

# 知夫里島学び舎構想（イメージ図）



将来の知夫の担い手／日本社会の担い手

-目指す子ども像-  
豊かな心を持ち、創造性に富み、たくましく生きる知夫の子



-大人の活躍の場の創出による、大人の学びの機会増-

地域活性化×人づくり

地域の魅力向上=学びの土壌の耕し



# 1 学び舎構想の趣旨

この「知夫里島学び舎構想」は、知夫村の次代を担う子どもたちの育成と村民が「誰でも、いつでも、どこでも、なんでも」学ぶことができる知夫村を目指し取り組むための基本的な考え方をまとめたものです。

これまで知夫村では、恵まれた地域の「ひと・こと・もの」を生かし、地域と連携した教育を進めてきました。そして、平成27年度からは小中一貫校としてのあゆみを始め、その後、島留学制度の開始、教育委員会事務局の校舎内移転、学校図書館の地域への開放、校舎内に地域交流室の設置など、それまでの知夫村の教育の良さに新たなものを加えながら教育の魅力化に取り組み、知夫村の次代を担う子どもたちを育ててきました。

しかし、これからの社会は、人生100年時代や科学技術イノベーションが先導する超スマート社会の到来に向け、人工知能（AI）をはじめとする急速な技術革新やグローバル化の一層の進展等、大きく変化することが予想されています。

こうした大きな社会変化を背景として、知夫村では今後の教育の在り方について検討し、そこで策定された「第6次知夫村総合振興計画（2021～2030）」では、本村の教育指針として引き続き「豊かな心を持ち、創造性に富み、たくましく生きる知夫の子」を育むことを基本に据え、「小中一貫校としての利点や、子ども一人ひとりの個性を發揮できる小規模校ならではの特色を最大限に生かしながら、学校・家庭・地域社会が密接な連携のもと、将来の知夫村や広く世界を担う子どもたちの豊かな人間形成を目指して地域総がかりでの教育を展開し、知夫村の子どもたちの成長を温かく見守っていくことが重要です」と述べています。

そして、主な施策として、ふるさと教育の推進、保育所との連携も視野に入れた小中一貫教育の推進、小規模一貫校の利点を活かした個に応じた教育、地域に開放した学校図書館（知夫村図書館）の充実、地域や教育の魅力化・活性化につながる島留学制度の推進等の方針が示されました。

知夫村教育委員会では、「子ども×大人のふるさと教育の推進」を中心に据え、地域や教育の魅力化・活性化を図り、更に目指す子ども像を具現化していくには、小規模小中一貫校という環境を生かした協働的な学び・個別最適な学び、ふるさとに愛着を持ち将来の知夫を担う人材を育むためのふるさと教育・キャリア教育、学びの基盤となる学習環境の整備や島留学制度による学校・地域の活性化等が重要であると考えます。

また、社会教育においては「大人の活躍の場の創出による、大人の学びの機会増」を目指し、公民館活動の充実、住民の学び舎としての学校・教育委員会・公民館的要素を持った一体型校舎の有効活用、地域人材の発掘・活用が重要と捉え、この「知夫里島学び舎構想」に学校教育・社会教育の基本的な考え方や方策をまとめました。

今後は、この方針のもと、知夫村の活性化につながる知夫村全体を学び舎とした教育の実現を図りたいと考えています。

## 2 学校教育について

### (1) 目指す子ども像

「第6次知夫村総合振興計画（2021～2030）では、本村の教育指針として、「豊かな心を持ち、創造性に富み、たくましく生きる知夫の子」の育成が掲げられています。

コロナ禍に代表されるように、変化が激しく予測困難な時代、「VUCA」（VUCA…Volatility “変動性・不安定さ、Uncertainly “不確実性・不確定さ、Complexity “複雑性、Ambiguity “曖昧性・不明確さ、）の未来社会を生きる子どもたちには、自分事として様々な課題に向かい、他の人と協働して解決策を模索しながら自立的に生き、未来を切り拓いていく、すなわち「生きる力」を育むことが一層求められます。

十五の春に島を離れる子どもが多い（自立が早い）知夫村において、主体的に学ぶ力、協働性を育む教育はさらに重要性を持ちます。

### (2) 小規模小中一貫校としての利点を生かした教育活動の推進

令和3年1月、中央教育審議会から、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して「～すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」という答申が出されました。

保育所が一つ、小中一貫校、地域が協力的であることは知夫村の強みです。『令和の日本型教育』の実現への大きな可能性を秘めています。小規模少人数であることを逆手に、少ないからできる教育活動を以下のように推進していきます。

#### ○少人数によるきめ細かな指導＜個別最適な学び＞

つまづきの発見や習熟度に応じた指導など、児童生徒の個々に応じた指導方法を工夫する。ICTの活用により、教員の負担も減らしながら、学びの個性を見取り、指導の個別化をはかる。また、小中一貫校としての強みを生かし、中学部教員が小学部の授業を受け持つなど、教科の専門性を生かした指導を実現する。

#### ○キャリア教育の充実＜個別最適な学び＞＜協働的な学び＞

キャリアパスポートを活用し、学びを蓄積するとともに汎用的な能力で自己をふり返ったり成長を確認したりすることにより、今の学習と将来とを結びつけて考えることができるようにする。また、高校生や大学生、大人との学びを積極的に取り入れることにより、自分の将来に夢や希望を持ち、実現に向かって前向きに取り組むことができるようにする。

#### ○複式教育の充実＜協働的な学び＞

上学年がリーダーシップを発揮したり、下学年が上学年の姿から学んだりするなど、2学年が一つの教室でともに学ぶよさをいかした指導を大切にする。そして、自分たちで学ぶ姿勢や子ども同士で学び合う姿勢の素地を培う。

### (3) ふるさと教育の推進<協働的な学び>

平成30年度より知夫小中学校は、ふるさと教育の9年間の学びをより充実させるために、見直しを図ってきました。9年間の学びを4期(「入門期」「前期」「中期」「後期」)に分け、内容が整理されました。小中の接続を考慮し、小5～中1を中期とし、「ふるさと学習発表会」も小中合同で開催することになりました。(下表参照)

「(地域に) 浸り」「(地域について) 知り伝え」「(地域の未来について) 提案し」「(地域のために地域の大人と) 実際に動く」という9年間の学びの流れができました。ふるさとを素材とした学び、ふるさとの人々との触れ合い、協働した経験は、ふるさとへの愛着を育むとともに、挑戦したり物事に粘り強く取り組んだりするための原動力となります。また、総合的な学習の時間を中心とした「探究的な学習の過程」(課題設定・情報収集・整理分析・まとめ発表)を繰り返すことで、確かな学力を育むことにもつながります。

今後は、「ふるさと教育担当者会」を中心に、教育委員会と学校が協働でふるさと教育を推進していくとともに、学校教育と社会教育が連携を図りながら、既存の「学校応援団」の活用や地域人材の発掘に努めます。(地域人材を活用した系統的・発展的な学び)

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
入門期		前期		中期			後期	
知夫のよさに 気づく・知る		知夫についてしっかり学ぶ					地域の大人と協働し 知夫のために行動する	
		知夫の学びを 広げる		知夫の学びを深める				
知夫が好きで、 よく遊ぶ子		知夫のことを知り、 よく分かろうとする子		知夫の今を知り、 未来を考える子			知夫の未来を描き、 提案、行動する子	

### (4) 教育環境の整備

○GIGA スクール構想(1人1台端末、高速通信ネットワーク整備)の推進

<新学習指導要領の着実な推進>

令和2年度、児童生徒1人に1台の端末(iPad)が配備されました。今後は、「すべての児童生徒に卒業まで貸し出し、学校内のネットワークに接続して授業等で活用する」こととなります。新学習指導要領では、情報活用能力(情報モラルも含む)を言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけています。機器等の整備やICT教材の購入、研修の実施等ハード・ソフトの両面での環境整備に努め、児童生徒一人ひとりに個別最適化された学び、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していきます。

○早期からの支援・切れ目ない支援体制の構築<チーム知夫><個別最適な学び>

子どもたち一人ひとりに合った支援の早期からの実現、支援を切れ目なく継続していくための体制の構築に努めます。

## 具体的な取組

- ・知夫村特別支援連携協議会を軸とした、教育、医療、福祉の連携
- ・相談支援チームによる定期の保育所訪問の実施
- ・5歳児健診への相談支援チーム及び教育委員会の参加
- ・相談支援ファイルとしての「のびのびファイル」の活用

### ○『知夫村の教育を考えるフォーラム（仮称）』の開催 <チーム知夫>

教育委員会、学校、保育所の取組についてや、その他子どもを育てることに関わっている機関、グループ等の活動について知る機会とするとともに、取組から出てきた課題や参加者から出された課題、感じていることについて解決の手立てを話し合う場とします。

教職員、保護者、地域住民が集い、知夫村の子どもたちの今と未来について考え、未来への思いや願いの共有を図り、地域総がかりでの教育の展開を目指します。

### ○学校図書館（知夫村図書館）の充実<チーム知夫>

平成29年度の校舎大規模改修後、平成30年4月からは、「知夫村図書館」として、公共図書館の役割も知夫小中学校図書館が担うことになりました。郷土資料等蔵書の充実、地域の人との異世代間交流、小中の系統的な図書館活用等、特色ある図書館を有効に活用していくことで、読書習慣の定着、情報活用能力の育成を図っていきます。そのためにも、令和2年11月に策定された「第1次知夫村子ども読書活動推進計画」に基づき、環境整備に努めます。

### 3 島留学制度について

#### (1) 島留学のねらい

平成29年度より学校および地域の活性化、青少年育成を目的とし、島留学事業を推進しています。

#### 【ねらい】

○島が元気になる（学校および地域の活性化）

学校では、島内生と島留学生在が共に交わり、授業・委員会・部活動などの学校活動の継続・発展していけることを目指します。島内生のみの硬質化されたコミュニティに島留学生在が入ることが刺激となり、互いに切磋琢磨していくことを期待しています。

島留学生在が、島内生や地域の大人と関わりながら、「100の約束」※や寮の活動、社会教育活動への参加を通して、島で学び、多くの人と喜びを共有していくことが島の元気につながるよう取り組みを推進していきます。

また、教育関連雇用や、島留学をきっかけとした教育移住による人口増を期待しています。

※「100の約束」…島留学生在が知夫村を舞台に自分らしく、やりたいことを叶えるプロジェクトのことです。島留学生在は活動を通して、島を味わい、人との繋がりを広げていき、大人は全力で島留学生在の活動を応援します。令和元年度～令和5年度までの5年間で100個やりたいことを実現することを目指しています。

○愛し、愛され、人生を楽しめる人をはぐくむ（青少年育成）

島留学生在が、学校教育・寮生活を通して、多世代の多様な人と交わり、島でしか味わえない学びの経験を得ることを期待しています。また「100の約束」を通して、知夫村を舞台に自分らしく楽しみ、島への愛着をはぐくんでいきます。

#### 【コンセプト】

「600人の家族とくらす島留学」

島留学生生活を通して、愛着をはぐくみ、互いが心から幸せを願える家族のような関係になることを目指しています。

#### 【目指す寮の姿】

地域に根差し、愛される（応援される）寮

#### 【目指す寮生の姿】

一人ひとりが憧れられる寮生

#### 【島留学で大切にしている価値観】

ぶるぶる（感動）・だんだん（感謝）・ランランラン（楽しむ）

## (2) 安定的な児童・生徒及びスタッフの確保体制の構築

### 【児童・生徒の確保】

島内生と島留学生の比率を考慮しながら、毎年度の島留学生の人数が6名程度になるように、毎年度新規島留学生の受け入れをします。互いにとって良い選択になる短期体験・選考を実施します。新規選考倍率3倍、継続率は100%を目指します。

### 【スタッフの確保】

平成29年度からスタッフの確保・定着の課題を抱えています。また、スタッフのほとんどが、1ターン出身者であり、地域との関係性づくりに難しさも課題です。

スタッフが持続的に働ける環境作りのため、教育委員会のスタッフが島留学事業に携われる体制を整えていきます。教育委員会のスタッフが地域との関係性作りのサポート役となったり、スキルアップのための研修に参加ができたことといった状況を目指します。

## (3) 今後の展望

### ○島留学ビジョンの遂行と振り返り

ビジョン遂行に向けて実践しながら、ビジョンについて定期的に評価・振り返りをします。2023年度にはビジョンの見直し、2026年度には5ヵ年計画の見直しを行います。

### ○はぐくみ寮の発展

寮生、スタッフが入れ替わっても継承していける「寮文化」を形成します。また、寮機能だけではなく、地域交流施設としての機能も強化し、より地域に根差した寮となることを目指していきます。

### ○100の約束の発展

現在は一人ひとりにあった100の約束の実践を目指しています。今後は、寮生だけではなく、島内生も参加できる取組としていくこと、学校との連携していくことも視野に入れ、取組を発展させていきます。

### ○地域から応援される島留学へ

より“地域に根差し、愛される(応援される)寮”となるために、「喜びの共有」を通して、応援者を増やしていきます。卒寮生ネットワーク作り、知夫村内で島留学生の保護者のような関わりを持ってもらえるような仕組み作りなどに取り組んでいきます。

### ○高校生との関わり

島前高校生をはぐくみ寮で受け入れ、小中高生が混ざり合い、互いに刺激し合える環境作りを目指します。まずは短期の高校生の受け入れから、試行的に開始し、高校生を受け入れられる寮の環境を整えていきます。

## 4 社会教育について

### (1) 社会教育のねらい及び基本目標

近年、社会構造の変化や少子高齢化、情報化、国際化がさらに進み、人々の生活環境、意識や価値観が複雑多様化し、学校や家庭、地域の在り方やその機能が大きく変化しています。この変化の激しい社会においては、学校教育はもとより生涯における学習を通じて自らの人格を磨き、学び得た知識や技術、経験を適切に生かせる社会の実現を図れることが一層重要になります。また、地域が抱える課題に対峙し、地域社会が求める教育の推進により、自立した持続可能な社会を築いていくことが急務となっています。

このような状況において、本村においては自立した活力ある地域づくり・生きがいをもった人づくりを推進していく必要があります。そのために、学校・家庭・地域の連携協力をさらに強化し島全体で子どもから大人の教育を進めるとともに、村民が集い、学び、結び合う活動の充実と創意工夫を図る社会教育の充実を目指します。それに伴い、以下の4点を基本目標とします。

#### 【基本目標】

- 社会教育事業・公民館事業での諸活動を通して、異世代間交流による地域の活性化を図り、村民の達成感と生きがいを深め、心身の健康増進を図る。
- 自然・産業・伝統文化等に親しみ、ふるさと知夫への愛着と誇りを育てる。
- 望ましい人間関係や住民同士の連帯感を醸成し、村民のボランティア精神の育成と学んだ成果の活用促進を図る。
- 地域の課題に主体的に立ち向かっていく地域の担い手となる人づくりを推進する。

### (2) 地域づくり・人づくりを推進するための重点施策

様々な分野において、公民館活動等を工夫・充実することで、多世代の多様な大人が、学びを楽しみ、活躍できる場を創出します。また、それを通して島の大人が学びの機会を自発的に創り出すことや学びを通じたつながりづくりにつなげていきます。そして、以下の9つを重点施策とし、自立した活力ある地域づくり・生きがいをもった人づくりを推進していきます。

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| ○ふるさと教育の推進           | ○人権・同和教育の充実と啓発活動 |
| ○特色ある宿泊体験活動の推進       | ○読書活動の推進         |
| ○放課後支援の推進            | ○生涯スポーツの推進       |
| ○公民館機能の充実            | ○家庭教育支援の推進       |
| ○伝統文化・郷土芸能の継承と文化財の保護 |                  |

### (3) 地域住民の学び舎としての学校・教委・公民館一体型校舎の活用推進

平成29年度、学校の大規模改修に伴い、学校1階部分に小中学校共同の学校図書館ができ、平成30年4月にこの学校図書館を地域にも開放し、公共図書館としての役割も担うことになりました。学校内にある地域交流室・公共図書館を有効活用することで、学校を地域住民の「学びの活動」の中心にします。さらに、学校を学び舎の拠点としながら、島全体も学びの場と捉え、多様な学びの場を創出します。

大人の活躍の場の創出によって、大人の学びの機会を増やすことを通して、地域を活性化させることや地域の課題に主体的に立ち向かっていく地域の担い手となる人づくりを進めていきます。それが、地域の魅力向上につながり、学びの土壌が耕され将来の知夫村の担い手となる子どもたちが「豊かな心を持ち、創造性に富み、たくましく生きる知夫の子」へとつながることを期待します。

### (4) 人材の発掘

平成25年度より、学校のふるさと教育を支える地域の体制作りが始まりました。平成26年度には、「学校応援団制度」が活用されるようになり、学習支援・部活動指導・環境整備・登下校安全確保・学校行事の支援など様々な教育活動において、地域の人材に協力していただくための体制を築き、地域に支えていただけてきました。今後も教職員が地域に出かけ、地域の人に出会い「ふるさと知夫」への熱い思いを共有しながら、知夫村の子どもに応じた授業を創る上で、地域と学校のかげはしとなるよう支援していきます。そうすることで、学校にとっては、子どもたちのふるさとを愛する気持ちを育むことへの効果が期待でき、地域にとっては、学校を応援する活動に主体的に関わることで、自己有能感、達成感、満足感を味わい、生きがいにつながる効果が期待できます。学校にとっても地域にとってもWIN×WINとなるよう、これからも地域の人材の発掘に努めていきます。

### (5) 広報活動の充実

地域住民に社会教育活動の目標、日々の活動を広く周知してもらえるように、広報活動を行っていきます。従来は年3回程度の村広報へ社会教育活動の周知を行ってきました。さらに予てより作成し、関係機関向けで発行していた「知夫村の社会教育（概要）」の活動報告欄を地区回覧板や、図書館、各地区バス停等の地域住民が集う場への広報や掲示を行い、これまで以上に地域住民の目に留まる周知を行っていきます。

村外への広報活動としてはSNSを活用し、社会教育活動や公民館活動の周知を行います。